

患者さんの権利に関する宣言

当院では、患者さんの尊厳や人間性が尊重され、パートナーシップを強化し、以下の権利が守られることを宣言します。

1. 良質の医療を受ける権利

患者さんは、差別されことなく適切な医療を受ける権利を有します。

2. 選択の自由の権利

患者さんは、医師や病院或いは保健サービス施設を自由に選択し、変更することができます。また、いかなる段階においても別の医師の意見を求める権利を有します。

3. 自己決定権

患者さんは、自分自身に関わる自由な決定を行う権利を有し、それに必要な情報を得る権利を有します。

4. 意思に反する処置

患者さんの意思に反する診断上の処置或いは治療は、原則的に行いません。

5. 情報に関する権利

患者さんは、医療上の自己の情報を得る権利を有します。また、知られずにおく権利と自分に代わって自己の情報の提供を受ける人を選択する権利も有します。

6. 守秘に関する権利

診療の過程で得られた患者さんの個人情報、全て保護されます。

7. 尊厳を得る権利

患者さんは、いかなる状態であっても全人的存在として、尊厳をもってその生を全うする権利を有します。

潤和会記念病院 院長 濱 川 俊 朗

記念病院 基本方針

1. 患者さんの人権と意思を尊重し、患者さんの立場に立った医療の提供
2. 地域の中核的病院として、専門的且つ高度な医療を実践
3. チーム医療を推進し、より良い医療を希求
4. 豊かな人間性を備えた医療人の育成
5. 職員が意欲を持って働ける職場環境

記念病院 理念 「人間愛」

宮崎の地に根ざし、未来へ
あ と が き
～地震に備え、共に歩む病院～

新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては、輝かしい
新年をお迎えのこととお慶び申し
上げます。

さて、新年早々、危惧されている
のが、大規模地震の発生です。特に、
私たちの街、宮崎市も南海トラフ地
震の影響を受ける可能性が指摘さ
れており、日頃から防災意識を高め
ることが大切です。

当院では、このような状況を踏ま
え、地震発生時の患者様や職員の安
全確保、医療サービスの継続を目的
とした「地震BCP（事業継続計
画）」を策定し、日頃から訓練を重
ねています。BCPでは、地震発生
時の初期対応から、医療機器の復
旧、医薬品の確保、情報伝達など、
様々な場面を想定した計画を立て
ており、万が一の事態に備えていま

す。
また、近年注目されている「医療
DX」も、BCPの実現に大きく貢
献します。医療DXとは、医療に

IT技術を導入し、業務の効率化
や医療の質の向上を目指す取り組
みです。当院では、医療DXを推進
することで、より迅速かつ正確な情
報共有が可能となり、地震発生時
における混乱を最小限に抑えるこ
とを目指しています。

しかし、どんなに医療DXが進ん
でも、医療の現場は人と人とのつな
がり、最も大切です。患者様一人ひ
とりに寄り添い、心のこもった医療
を提供できるのは、私たち医療従事
者一人ひとりの人間力です。

今後も、当院は地域に根ざした
病院として、患者様や地域の皆様
の安全と健康を守り、安心して暮ら
せる社会の実現を目指してまいり
ます。

新しい年が、皆様にとって、健康で
幸せな一年となりますよう心より
お祈り申し上げます。

うるおい
2025年
1月1日発行

No.
99

一般財団法人 潤和リハビリテーション振興財団
潤和会記念病院
病院長 濱川俊朗
〒880-2112 宮崎市大字小松1119番地
TEL0570-00-4755 FAX0985-47-8558
<https://www.junwakai.com/>

“新年のご挨拶”

潤和会記念病院院長

濱川 俊朗



新年あけましておめでとうございます。皆様にと
って、希望に満ちた一年となりますよう心よりお
祈り申し上げます。

2024年は、人工知能(AI)とAIを用いた研究
が、ノーベル物理学賞と化学賞を受賞するという
歴史的な年となりました。これは、AIが科学技術
の発展に不可欠な存在となり、私たちの生活を大
きく変える可能性を秘めていることを示していま
す。医療においてもAIによる画像診断の精度向上
や新薬開発の加速など、大きな変革をもたらしつ
つあります。

当院でもAIをはじめとするデジタル技術を活用
した、医療画像の診断支援システムの導入など、
デジタルトランスフォーメーション(DX)を推進して
おります。これらを通じて、医療の質の向上と患者
さんの負担軽減を目指しています。しかしながら、
AIなどDXはあくまで人間の能力を拡張するツール
であり、医療の主役は人です。いくら高度なAI
が開発されたとしても、患者さんの心身に寄り添
い、温かいケアを提供できるのは、私ども医療従
事者だけです。

古今東西、人々の健康に対する願いは変わり
ません。例えば、2000年以上前の中国の医学書
の『黄帝内経』には、「上医治未病、中医治已病、
下医治其疾也」、つまり「上医は病気を発症する
前に防ぎ、中医は病気が発症してから治し、下医
は病気が悪化してから治す」という言葉がありま
す。「上医治未病」、この言葉は生活習慣病や健

康寿命など、現代社会が抱える問題解決におけ
る予防医療の重要性を説くうえで、普遍的な価値
を持ち続けています。

当院においても、特定の領域に専門性を持つ
看護師が、医師と連携しながら患者さんや家族
の皆さんの相談に応じる看護外来を行っていま
す。さらに管理栄養士による栄養指導や歯科衛生
士による口腔ケアなどの多職種による様々な取り
組みを行っています。これらを通じて、病気になら
ないための予防医療をサポートします。

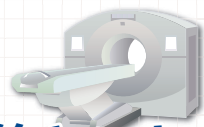
また、近年では、患者さんの治療に対する自己
決定権が尊重されるようになり、医療に関する情
報提供の重要性が高まっています(人生会議、
ACP)。私どもは患者さんに対して、わかりやすい
言葉で病気のことや治療のこと、そのメリットとデ
メリットについて十分な説明を行うよう努めていま
す。そして患者さん自身が、自分の治療について主
体的に決定できるようサポートしていきます。このこ
とで、さらに良い治療や生活の質(QOL)の向上
につながると考えます。

今年も私どもは全力を尽くし、より良い医療を
提供するために日々研鑽を積んでいきます。そし
て、地域社会から信頼される病院であり続けるた
めに、職員一人ひとりが患者さんご家族とのコ
ミュニケーションを大切にし、温かい心で接するこ
とができるように努力してまいります。

今年も、どうぞよろしく願いいたします。

MRI検査Q&A

よくある皆様の疑問にお答えします

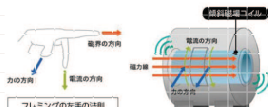


放射線科 部長 鈴木 由紀子

Q1 検査中の「カンカン、ガーガー」というあの騒音はなんですか？



A MRI装置は非常に強い磁力を持った磁石とコイルでできています。撮像時にはこの磁石の中にあるコイルの1つである傾斜磁場コイルに電流を流して磁場を発生させ撮影します。このコイルに電流を流した時に、誘引される力(ローレンツ力)が発生します。この力が傾斜磁場コイルに働き振動させるのであの大きな音ができるのです。当院ではこの騒音には耳栓で対応しておりますが、それでもかなりうるさいといわれてしまいます。



騒音の原因となる振動が生じる原理

Q2 MRI検査室がいつも寒いのですが、なぜですか？

A MRIの撮影中には、高周波の電磁波の影響で体温が上昇してしまいます。(撮影条件や個人差もあり)このため撮影室の温度は25℃以下と安全基準が決められており、年間を通し22℃に設定することが望ましいとされています。当院では年間を通し24℃(±1℃程度)に設定していますが、それでも寒さを訴えるかたが多いです。皆様の安全のためなのですが、寒いときは、タオルケットや毛布などで調節していただきますので担当者にお申し出ください。



Q3 化粧やコンタクトレンズはダメと聞きましたが本当ですか？

A MRI検査は放射線を使わない安全な検査ですが、金属がある場合は別です。引っ張られたり、発熱したりと人体に危険な場合もあります。化粧品、コンタクトレンズには酸化鉄、酸化亜鉛、酸化チタン等の金属を含むものがあります。成分表や添付文書には記載がありますが、すべてを確認して検査することは難しいので、可能性のあるものはできるだけ除いて検査します。化粧は落として、コンタクトも外すようお願いしています。

Q4 最近、MRIの問診で、体内金属の確認が厳しくなっているのはなぜ？ 以前撮ったときは、こんなにいろいろ調べなかったのに…

A 手術などで埋め込まれた体内金属は、2022年まではスタッフが問診表で病歴等を確認し、磁性体金属でなければ、通常通りの検査を行っていました。しかし、診療報酬改定で画像診断の管理にいくつかの施設基準が設定され、MRIの安全管理を適切に行うことが求められるようになりました。このため当院でも可能な限り体内金属の種類を調べて対応することになりました。(製品毎に添付文書があり、MRIが安全に撮れる撮影の条件等が記載されています。この添付文書の番号を手術した医療機関に当院から問い合わせ調べています。)以前よりも手術歴の確認等の問診が厳しくなったと感じられる方が多いのはこのためです。MRIを安全に受けていただくために、面倒ですがとても大切なことです。ご協力をお願いいたします。

増毛パウダーに気をつけて！

最近増えているのが、増毛パウダーとかヘアファウンデーションという名称で売られている黒や茶色の粉です。(分け目の白髪隠しにも使われています)この粉には酸化鉄が多く含まれており、火傷の危険やMRIの画像に影響するだけでなく、装置の中に入り込み故障の原因にもなります。MRI検査の際には絶対に使用しないでください。



～手術前に気をつけたい薬の話～



薬剤管理室

外来で入院や手術が決まった時、そして入院された時には普段服用されている薬や健康食品・サプリメントについて薬剤師が確認します。患者さんが手術や入院中の服薬を安全に行うために大切なことです。手術や検査などのために一時的に薬の服用をお休みすることを「休薬」と呼び、休薬の期間は薬によって異なります。医師の指示のもと、休薬の期間によっては入院前から患者さん自身に行っていただく場合があります。

① 手術前の外来受診時に現在服用されている薬について確認します。

お薬手帳など、薬の内容が分かるものをご持参ください。

② 手術前に休薬が必要な薬(*)があれば、いつから休薬が必要なのかをご説明します。

休薬する薬がどの錠剤なのか分からない場合は、かかりつけの調剤薬局・病院へご相談ください。

③ 入院後に休薬していないことがわかると手術を延期せざるを得ないこともありますので、手術日(入院日)が近付いたら再度休薬期間のご確認をお願いします。

入院前に外来で配布する「手術・検査前のお薬の休薬について」を参考にしてください。

④ 服用再開時期については、手術後の経過をみて主治医が判断します。

※手術前後で休薬が必要な薬※

○出血のリスクがある薬(血液をサラサラにする薬)

→薬を飲むことの利点と欠点を天秤にかけ、処方元の医師と相談して薬を継続するか、休薬するかを検討します。

- ・抗血小板薬: バイアスピリン、クロピドグレル、シロスタゾール、リマプロストなど
- ・抗凝固薬: ワルファリン、イグザレルト、エリクセス、リクシアナなど



○血栓(血のかたまり)を形成するリスクがある薬

- ・経口女性ホルモン薬: 経口避妊薬、月経困難症治療薬など
- ・骨粗鬆症治療薬: ラロキシフェン、バゼドキシフェンなど

○その他、高脂血症治療薬や免疫抑制薬、自己注射薬の中にも休薬が必要な薬があります。

～おまけの話①健康食品、サプリメント～



健康食品やサプリメントの中には血液をサラサラにする成分や、医薬品との飲み合わせの良くない成分を含むものもあります。そのため入院中は健康食品、サプリメント、市販薬は基本的に中止をお願いしています。摂取しているものがある場合は、入院時の面談の際に薬剤師に伝えてください。

- 例)・出血のリスクを増加させる可能性がある成分: 魚油(EPA/DHA)、生姜、ノコギリヤシ、ウコンなど
- ・抗凝固薬との併用で出血のリスクを増加させる成分: イチョウ葉エキス、ナットウキナーゼ、パパイアなど
- ・医薬品のワルファリンの抗凝固作用を減弱させる成分: クロレラ、青汁(ケール)、クマザサなど

～おまけの話②お薬手帳～



- お薬手帳とは、処方された薬の内容を記録する手帳のことです。
- 氏名、生年月日の他にもアレルギー歴や副作用歴についても記入しておくことで自分に合わない薬が処方されるリスクを回避することができます。
- 災害時には医療機関で記録(カルテ、処方歴)を見ることができないことも考えられ、お薬手帳が貴重な情報源となります。
- ※病院毎・薬局毎にお薬手帳を使い分けている方や家に保管されている方もいらっしゃいますが、1冊にその方の薬の情報を集約し、病院や薬局でお薬手帳を見せて頂くことで、同じ効果の薬の重複投与や飲み合わせの確認をすることができます。
- お薬手帳は1冊にまとめ、病院や薬局へ行く際はお薬手帳を持参しましょう。